

教会は、イエスの受難、死、復活という決定的なできごとを記念する「聖週間」に入ります。イエスの受難を記念するミサでよく歌われるのが、「いばらのかむり」です。「いばらのかむり」は、バッハのマタイ受難曲の中心的なコラールです。いばらのかむり (マタイ受難曲から)

<https://www.youtube.com/watch?v=nbO1G-X9Y2Y>

## バッハの《マタイ受難曲》 カール・リヒターの芸術 CD 解説から

### 礒山雅氏

私の手元に、バッハが51歳のころに書いた、《マタイ受難曲》の自筆総譜がある。もっともそれは、現代技術を駆使したファクシミリ版なのであるが、丁寧に美しく浄書され、聖書の句を赤インクで「聖別」さえしてあるそのページをめくると、バッハがこの大作にこめた気概、あるいは祈りがひしひしと感じられて、思わず襟を正したくなる。

選り抜きの名作が揃っているバッハの作品中でも《マタイ受難曲》がまったく特別の重みを持っているということに、おそらく同意しない人はいないだろう。宗教音楽史上、あるいは全音楽史上、これに比肩する作品はないというのが、《マタイ受難曲》に接するたびに生じる、私のいつわらざる実感である。それだけの作品であるから、《マタイ受難曲》は音楽に純粹に耳を傾げるだけでも、われわれに確実な感動を約束してくれる。

しかし、これほどの作品になるさまざまな予備知識を持つことによって、一層実り豊かな鑑賞ができるようになることも確かである。そこで以下に、《マタイ受難曲》を聴く上でのよき参考となることを願いつつ、ささやかな案内文を綴ってみることにしたい。

### 受難の意味

受難とは何だろうか。それは、キリストにおいて神の御子(神の地上に現れた姿)とされるイエスが、新しい福音を宣べたが故にユダヤ教の体制派にうとんぜられ、十字架上で処刑されたできごとを指

す。たいていの宗教では、神は輝かしく力強い姿で描かれるのであるが、キリスト教の場合はそうではない。キリスト教は、御子のみじめな受難に委ねたことにこそ、神の偉大な愛があると考  
るのである。

なぜならイエスの受難は人間の罪を御子が肩代わりして、そこから人を解放するために行われた  
からである。したがって、イエスをキリスト(救い主)と信ずる人は罪や苦悩から解放され、復活し  
て神に座したイエスとともに、新たな生を生きることができるとされる。

これはキリスト教の教義の、もっとも重要なポイントである。なぜなら、すべての宗教と同じくキ  
リスト教においても、罪、死、苦悩といった事柄が、信仰の原点に存在するからである。このため  
十字架は教会の象徴として大切にされ、信者の愛蔵品とされたり、家庭や道端に祀られたりする。  
十字架上のイエスの姿が宗教芸術のもっとも重要な対象のひとつとなることは、ヨーロッパ絵画の  
歴史が示す通りである。

## 受難曲とバツハ

音楽でも、その事情は同じだった。歴史上キリスト教国では、謝肉祭の乱痴気騒ぎが終わると四旬  
節の節制と断食の 40 日に入り、オペラや大がかりな宗教音楽が粛せられて、人々は静かに受難と  
復活の季節の到来を待つ(3 月前後)。そして「しゅろの日曜日」(枝の主日 今年は 3 月 29 日)に始  
まる聖週間では、受難が行われたとされる聖金曜日に向けて、主の受難の追想が深められて行く。  
そして聖金曜日の夕べの礼拝において、主の受難の物語に基づく楽曲が演奏されるのである。キリ  
ストの受難の物語を記述しているのは、新約聖書の冒頭に置かれた、4 つの福音書である。『マタ  
イ』『マルコ』『ルカ』『ヨハネ』の 4 つの福音書は、同じ出来事を、それぞれの角度から別様に述  
べている。

このうちバッハがオリジナルの音楽をつけたのは、マタイ、ヨハネの両福音書に対してである。これらの作曲は、いずれもライプツィヒ時代の初期、バッハが聖トマス教会のカントルおよび市の音楽監督として教会音楽の創作に心血を注いでいた時期に行われた。現在の研究によれば、《ヨハネ受難曲》の初演が1724年、《マタイ受難》のそれが1727年である(以後両曲とも、何度か改訂上演されている)。したがって《マタイ受難曲》は、バッハ42歳の充実期に、教会音楽創作のひとつのクライマックスをなすような形で生まれてきたことになる。

もちろん『マタイ』による受難曲は、バッハに至るまでに長い歴史を持っていた。中世において3人の聖職者が役割を分担し、劇的な要素を加味しながら受難のくだりを朗読したのが、その発端であった。ルネサンス時代には、聖句全体のポリフォニー合唱化がよく試みられた。しかしバロック時代のドイツで盛んになったのは、聖句の間にアリア(叙情的、旋律的な特徴の強い独唱曲)やコーラル(讚美歌)」を挟んで行く、"オラトリオ(宗教的な題材による演奏会形式の大規模な叙事的楽曲)風受難曲"といわれる形のものであった。こうした様式を、バッハは考え得る限り意味深く用いている。

《マタイ受難曲》の編成は、当時としては非常に大きい。オーケストラと合唱はそれぞれ2グループずつあり、独唱者には、聖書の本文(ルター訳のドイツ語)を歌う人々一語り手の福音史家(テノール)とイエスを歌うバス、その他一に加え、アリアを歌う4人(ソプラノ、アルト、テノール、バス)ないし8人(4×2)が要求される。聖書の本文による楽曲(以後聖句楽曲と呼ぶ)は、通奏低音の伴奏するレチタティーヴォ(オペラ、オラトリオ、カンタータなどの中で、話し言葉で語るように歌

われる部分)で簡素に綴られ、オーケストラはその間沈黙するが、イエスの言葉には、いわゆる「光背」を思わせる、豊かな弦合奏が加わっている。

全曲は大きくふたつの部分に分かれ、第1部は受難の予言から最後の晩餐を経てイエスが捕らわれるまでを、第2部は裁判の場面から磔刑、イエスの死、そして埋葬までを扱う。その進行は多彩で変化に富んでいるが、まず重要なのは、そこに3つの異なった層が合成されている、ということである。

有名な「ペテロの否み」の場面を、「ドイツ音楽の父」と呼ばれる先輩ハインリヒ・シュッツの作り方と比較してみよう。シュッツの<マタイ受難曲>(1666年)においては、一番弟子のペテロが巻き添えを恐れてイエスとの関係を3度否認したこと、するとイエスの予言通り鶏が鳴いたことが、無伴奏のレチタティーヴォによって、淡々と語られて行く。すなわちここには、聖書のできごとの客観的な叙述、三人称的な「彼」の世界のみがある。バッハはどうだろうか。まず「彼」の世界が描かれ、ペテロの慟哭が伝えられるとすぐ、ヴァイオリンのオブリガート演奏を伴いつつ、アルトが歌い始める。このアリアの歌詞は聖書にはなく、バッハの歌詞作者であったピカンダーが、ロストックの神学者、H.ミュラーの説教をモデルとしながら作成したものである。アルトは、罪を悔いるペテロにとって代わり、涙ながら主に憐れみを祈る。「否み」は、ひとりペテロの罪であるのではない。いま礼拝に加わっているわれわれも、その場に置かれれば、同じことをするに違いないのである。要するにこのアリアは、福音書の記述に対する主観的な反応、主情的な受け止め方を語るわけで、前者を「彼」の世界であるとすれば、これは「私」の一人称世界であるということができ

る。

しかし音楽はこれで終わらない。このアリアが感銘深く歌い納められた後、今度は合唱が、コーラル(ドイツ語の讚美歌)を歌いながら入ってくる。これは、**たとえあなた離れることがあってもまた立ち帰ろうという決意を歌い、温かい連帯感のうちに、神のみと愛は人間の罪よりも遥かに大きい、という認識を述べる**。すなわちこれは、それまでの経緯にいかなる意味があるかを、信徒共同体の立場から論ずる部分である。

バッハの受難曲には、**このように聖句の提示だけではなく、それへの反応や神学的意味づけまでが、作曲しこまれている**。「彼」「われ」「われわれ」の3つの極を往復する力動的な展開に身を委ねるうちに、われわれの心はいつしか聖書の語るキリストの贖罪の本質へと導かれていく。

こうした展開のダイナミズムを、バッハはふたつの演奏者グループを使うことによって一層高めた。

台本によれば、第1のグループは「シオンの娘」を、第2のグループは「信ずる魂」を表す。すなわち、前者が受難のできごとを間近で目撃するのに対し、後者は、その報告を受けて、憂慮し、後悔し、また省察していくわけである。

キリスト教用語。神の子**キリスト**が十字架にかかって**犠牲**の死を遂げることによって、**人類**の罪を償い、救いをもたらしたという**教義**。キリスト教とその**教義**の**中心**。罪のあがない。

カール・リヒター J・S バッハ マタイ受難曲 1971年 ミュンヘン 2970円

第1部 「受難の予言」「香油をそそぐ女」「ユダの裏切り」「最後の晩餐」「躓きの予

## 第 1 曲

冒頭、ホ短調の大合唱曲は、われわれをいきなり壁画的な受難の描写へと向かい合わせる。8 分の 12 拍子による引きずるような曲調は、イエスの十字架への歩みを暗示し、合唱の第 1 グループがその光景をありありと伝えて、第 2 グループと応答する。するとそこに少年合唱が、コラール〈お、神の小羊〉を響かせつつ加わり、この場面の意味が「**われらの罪を負っての罪なき者の受難**」にあることを宣言する。このコラールをバツハは、オルガン演奏から後に合唱へと変更した上、自筆総譜にその歌詞を赤インクで書き入れ、このコラールの内容が聖句に劣らぬ重要性を持つことを明らかにした。

### **二重合唱 0:39～11:38 11 分**

来たれ、娘たち、共に嘆こう。

見よ。―誰を？(受け答えになっている)

―**その花婿を。**

見よ。―どのような？

―**子羊のような姿を取られた方を。**

見よ。―何を？

―**その忍耐を。**

見よ。―どこを？どこを？

―**私たちの罪を。**

**愛と慈しみのために十字架の木を自分から担ぐ花婿を見よ。**

## コラール

おお神の子羊、罪なくして十字架上で殺され、どんなに辱めを受けてもどんなときにも堪えている。

**あなたは全ての罪を負っているが、そうでなければ私たちは絶望してしまう。**

おおイエスよ、我らを憐れんで下さい。

## 第 2 曲～第 5 曲「受難の予言」

聖句によるレチタティーヴォ（叙唱：オラトリオ、カンタータなどの中で、話し言葉で語るように歌われる部分をいう。）は、まず受難の予言に始まる。イエスの「十字架につけられるために」の

句がアリオソ風に強調されると、すぐにコラール（讚美歌）〈心より慕いまつるイエスよ〉が導入されて、イエスがわれらの身代わりとして渡されることを述べる。このヘールマンのコラールは**贖罪の象徴**として、3度出現する。祭司長らの謀議は2群の合唱の、主体性を欠いた模倣によって描かれる。

11:40~13:50 3分

**福音史家** イエスはこれらの言葉をみな言い終えてから、弟子たちに言われた。

**イエス** 皆の知っているとおおり、2日後は過越の祭りである。そこで人の子は、十字架につけられるために引き渡されるだろう。

コラール

心より愛するイエスよ、**こんなに厳しい判決を受けるようなどんな罪を、あなたは犯したというのですか？**

**その罪とは何ですか？どんな悪業に陥ったというのですか？**

13:45~14:30

**福音史家** そのとき、大祭司や律法学者、民の長老らがカイヤファという大祭司の邸宅に集まり、策略をもってイエスを捕らえて殺そうと話し合った。しかし彼らは言った。

**二重合唱** そうだ、祭りの間はいけない。民衆の間に暴動が起こらないように。

## 第6曲～第10曲「香油をそそぐ女」

ベタニヤのシモン家で、卑しい女がイエスに近づき、その首に高価な香油を注ぎかけた(油を注ぐという行為には、「王」を認定するという古来の意味がある)。この行為を憤る弟子たちの無理解な合唱には、フルートの浮薄な飾りがつけられている。イエスは続くレチタティーヴォで、女の行為の意義を「葬りへの備え」と解き明かす。続くアルトの管弦楽伴奏つきレチタティーヴォでは、涙のしたたりを具象化した音型がフルートに現れ、それは間もなく舞曲風のはずみを得て、嬰へ短調のアリア〈悔いの悲しみは〉の主旋律になる。ひたむきに後悔を歌うアルトには、マグダラのマリアの面影が認められよう。その感情はいつしかイエスへの熱烈な愛情と化して、聴く者の心に

染み通ってくる。

14 : 30～15 : 30

**福音史家** さて、イエスがベタニアのらい病人シモンの家に行ったとき、ある女性が高価な香油の入った石膏の壺を持って彼に近づき、食卓についていたイエスの頭に振りかけた。弟子たちはそれを見て、憤って言った。

**合唱 I** 何のためにこんな無駄をするんだ？この香油を高く売って、貧しい人に施しをすることが出来たじゃないか。

15:30

**福音史家** イエスはこれに気づいて、弟子たちに言った。

**イエス** なぜこの女性を困らせるのだ？私に善いことをしてくれたのだ。諸君はいつも貧しい人と一緒にいるが、私とはいつも一緒にいるわけではない。彼女が私の体に香油を注いだのは、私の埋葬の準備をしてくれたのだ。確かに諸君に言うておこう。全世界どこでも、この福音の宣べ伝えられるところでは、彼女のしたことも記念として語られるだろう。

17:40 レンタティーボ(アルト I)

愛する救い主の君よ、この心やさしい女性が香油をもってあなたの体に葬りの用意をしたのを、弟子たちが愚かに求めるならば、そのときには私の目にあふれる涙をあなたの頭に注ぐのをお許し下さい。

19:04 アリア(アルト I)

懺悔と後悔は罪の心を二つに引き裂く。私の涙のしずくは、まことなるイエスの、かぐわしい香料になるでしょう。

## 第 11 曲～第 12 曲「ユダの裏切り」

弟子の一人ユダは、イエスを裏切る決心を固めた。この報告を受けて、ソプラノはロ短調のアリア

<血を流せ、わたしの心よ> を歌う。これは文字通りの切々たる悲しみを表現する音楽で、2 本の

フルートと弦による嘆きの音型が支配的である。

23 : 30～24:10 1分

**福音史家** そのころ、12 人の弟子の1人のイスカリオテのユダという者が、大祭司らの所に行って言った。

**ユダ** 私にいくらくれますか？彼をあなたがたに売りましょう。

**福音史家** そこで大祭司らは銀貨 30 枚を差し出した。そのときからユダはイエスを引き渡そうと機会を狙っていた。

24:10 アリア(ソプラノ II)

ただ血にまみれよ、愛する主のみ心よ。ああ、あなたの育てた子、あなたの胸で乳を吸った子は、その親を脅かし殺さんとする。その子は蛇になってしまったのだ。

### 第 13 曲～第 18 曲「最後の晩餐」

音楽は、ここから明るイト長調の世界となる。弟子たちの合唱(第 14 曲)には、過越祭を待つ若者たちの喜びが感じられる。しかし、陽が落ちて最後の晩餐の場となり、イエスが裏切り者の存在を

指摘する場面では、音楽はフラット系の短調へと転調して、暗い気分を漂わせる。

憂慮する弟子たち。しかし、裏切りは人間すべての心の中にひそむ弱さの表れに他ならない。第 16 曲のコラール 〈わたしです。わたしこそ償いを担うべきです〉 は、その咎を自分の身に受けうとするキリスト者の恭順な名乗りである。

このコラールの旋律には、H.イザークの有名な〈インスブルックよさらば〉が用いられている。

暗い気分はやがて神秘的なへ長調へと移行し、第 1 部の中核ともいえるべきイエスによる最後の晩餐の制定の言葉となる。イエスのパートには、この部分でのみまとまったアリオソが与えられ、その確信に満たされた力強い語りは、天上の宴の準備としての一また後のミサの原型としての一最後の晩餐の意義を鮮やかに浮かび上がらせる。イエスが語ると共に弦の伴奏も豊麗さを加え、あたかも「光背」が、いや増しに輝き渡るかのような印象を作り出す。

この上ない悲しみが来世の喜びに通じるというパラドックスは、続くソプラノのレチタティーヴォ 〈よしやわが心は〉(第 18 曲も投影されている。そこでは 2 本のオーボエ・ダモーレが、心の「波のまにまに」漂うさまを形象化して示し、ソプラノが別れの悲しみと御言葉の喜びとを、複雑な感慨をこめて詠ずるのである。アリア 〈わたしはあなたに心を捧げます〉(第 19 曲)によってト長調の喜ばしい世界が回復され、最後の晩餐をめぐる場面が閉じられる。

29 : 50~38 : 20 9分

福音史家 さて、酵母無しパンの祭り(過越の祭り)の1日目に、弟子たちはイエスのところに来て言った。

合唱 I 先生、過越の羊を食べるための用意を、どこにしたらいいでしょう？

30:30

福音史家 イエスは言った。

イエス 都の例の人の所に行って、こう言いなさい。「先生が、私の時が来た、あなたの所で弟子たちと過越の食事の用意をしたい、とおっしゃっています。」

福音史家 弟子たちはイエスの命じた通りをして、過越の羊の用意をした。

夜になって、弟子たちと机を囲んで食事をしていたとき、イエスが言った。

イエス たしかにあなたがたに言うておく。一人が、私を裏切ろうとしている。

福音史家 弟子たちは非常に心配して、次々に言い出した。

32:34 合唱 I 先生、私ですか？

32:53

コラール

それは私です。私こそ悔い改めなければなりません。手と足を地獄につながれるのは私です。鞭と縄、そしてあなたの堪えたもの、それは私の魂こそが受けるべきものです。(自分はそんなに罪深くない、などと考えがちだが・・・スケールの大きさ)

福音史家 イエスは答えて言った。

イエス 私と一緒に鉢に手を入れている人が、私を裏切ろうとしている。たしかに人の子は、聖書に書いてあるとおりに去って行く。しかし人の子が裏切られるその人はかわいそうだ。このような人は生まれない方が、彼のためには幸せだったろうに。

福音史家 イエスを裏切ったユダが答えて言った。

ユダ 先生、私ですか？

福音史家 イエスはユダに言われた。(緊張感のある歌い方)

イエス あなたの言うとおりに。

## 最後の晩餐の場面

35:41

福音史家 彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、感謝して裂いて、弟子たちに与えて言われた。

イエス (メロディに注目:イエスの心を大きさ、愛の深さを感じる) 取って食べなさい。これは私の体である。

福音史家 また杯を取り、感謝を捧げて弟子たちに与えて言った。

イエス みんなこの杯から飲みなさい(メロディに注目:弟子たちを愛しながら別れを告げる、自分に与

えられるものは全て与えて・・雄々しさを感じさせる、天の国を垣間見て、苦しみの先に希望を見出しているよう)。これは私の**新しい契約の血**。多くの人の罪の許すために流す血。あなたがたに言う。私の父の国で諸君と共に新しいものを飲むまで、私は今後決して葡萄の実から作ったものを飲まない。私の父のみ国で君たちと共に新しき酒を酌み交わそう。

38 : 20~43 : 20 5分

38:20 レシタティーボ(ソプラノ I)

イエスが私たちに別れを告げたことで私の心が涙に漂おうとも、それでもイエスの契約は私を喜ばせる。**そのかけがえのない肉体と血を、イエスは私の手に残してくださった**。イエスがこの世で彼らに悪くなかったのと同様、**世の終わりまで愛していただきます**。

39:35~43:20 アリア(ソプラノ I)

あなたに私の心を捧げます。私の救いを私に授けて下さい。私はあなたの内に沈みたいのです。この世があなたにとって小さすぎるとも、ああ、それなら私にとってあなただけが天よりも地よりも大きな方なのです。(ソプラノ歌手の表情、声量に注目しながら聞きましょう) **ここまで 29 分**

## 第 20 曲～第 23 曲「躓きの予言」

オリーブ山に赴いたイエスは、弟子たちの躓きを予言する。散らされる羊の群と復活の絵画的な描写。ゲールハルトの<受難コラール>が、ここで2度にわたって出現する。

(緊迫したトーン)

**福音史家** 彼らは賛美歌を歌ったあとオリーブ山へ出かけた。そこでイエスは弟子たちに言った。

**イエス** 今夜、諸君はみな私につまづくだろう。聖書に「私は羊飼いを打つ。すると羊の群れは散りじりになる。」と書いてあるからだ。しかし私が復活しとき、私は諸君より先にガリラヤに行っていよう。

45:59~48:28 3分

コラール 45:59

私を覚えてください、私の守り手よ、私を認めて下さい。私の牧者よ、私を受け入れて下さい。全ての善いものの源よ、あなたによって私は善いものを得ました。あなたのみ言葉は乳の甘い滴のように私を潤し、あなたの霊より溢れる賜物は、私は天の歓びで満たしてくれました。

緊迫したトーン(全力の二人のやりとり)

46:00

**福音史家** しかしペトロは答えてイエスに言った。

**ペトロ** みんなが先生につまづいた時でも、私は決してつまづきません。

**福音史家** イエスは言った。

**イエス** はっきり君に言う。今夜鶏が鳴く前に、君は三度私を知らないと言うだろう。

福音史家 ペトロが言った。

ペトロ たとえ先生と一緒に死ななくてはならなかった時でも、決して先生を知らないなどとは言いません。

福音史家 弟子たちは一人残らず同じように言った。

### コラール (2 回目の受難のメロディ)

47:20~48:28

私はあなたのもとに留りましょう。私を退けないで下さい。あなたのもとを私は去りません。あなたの心が張り裂けて、あなたの胸がとどめのひと突きに青ざめて果てる時も、私はこの胸を広げて、御体を私の懐に抱きましょう。

## 第 24 曲～第 31 曲「ゲッセマネの園」

ゲッセマネの園の情景には、人間的な苦悩が満ち満ちている。3 人の弟子を伴って祈りに出たイエスは、迫りくる受難に恐れおののく。へ短調の切実な音楽が響き始め、テノールがイエスの苦悩を思いやる(第 25 曲のレチタティーヴォ)。だがそこには、第 3 曲に聴かれたコラールが挿入され、イエスの苦悩が実はわれわれの罪によることを想起させるのでつまずある。ソロと合唱の対照は、続くハ短調のアリア〈わたしのイエスのもとに目覚めています〉にも受けつがれる。目覚めつつ主の悩みを共にしようとする決意を歌うテノールに、合唱はやさしい子守歌の調べをもって和し、これを縁取るオーボエの美しい旋律が、夜明けの詩的な情緒を伝える。

イエスの第 1 の祈りを受けるバスのレチタティーヴォ(第 28 曲)は、「ひれ伏す」さまを具象化するような音型を伴っている。それはまた、イエスに下る神の恵みの暗示でもあろう。父なる神への従順として苦い杯を受けるイエスに倣おうという決意を、ト短調、8 分の 3 拍子リアが歌い出す。一層高揚したイエスの第 2 の祈り。「キリストの巨大な戦いは終わった。コラール(第 31 曲)が、それを信徒の立場から確認し、支持する」(H.クレツチュマル)。

48:28~52:53 4分

福音史家 それからイエスは彼らと共にゲッセマネという園に来た。彼はそこで弟子たちに言った。

イエス 私が向こうに行って祈っている間、ここに座っていなさい。(メロディに注目)

福音史家 そしてペトロと、ゼベダイの2人の子らを連れて行ったが、イエスは悲しみ、苦しみのあまり悶え始めた。それから彼らに言った。(メロディに注目)

イエス 私の心は死ぬばかりに悲しい。ここにいて、私と一緒に目を覚ましていなさい。(死を覚悟しながら弟子たちに「ひとりにしないで欲しい」と訴えている)

51:00

レシタティーボ(テノール I)とコラール

テノール おお痛ましい！ さいなまれた心がうち震えておられる、崩れ折れる御姿！ 青ざめる御姿！

合唱 II その苦悶の原因は何なのですか？

テノール 裁き人がイエスを法廷に連れて行く。慰めもなく助ける者もない。

合唱 II ああ。私の罪があなたを打ったのです。

テノール イエスは地獄のさまざまな責め苦にあった。他人の罪をあがなわねばならなかったのだ。

合唱 II ああ主イエスよ、私こそこの咎めを受け入れるべき罪人、しかしあなたはそれを背負ってくださる。

テノール ああ、私のつたない愛が、あなたの憂いと悩みとおののきを和らげ、負い分かち合えるのなら、私は喜んでここにとどまりたいです。

52:53~58:25 5分

アリア(テノール I と合唱 II) 関わろうとする態度

テノール 私は、我がイエスのもとで目覚めていよう。

合唱 II そうすれば私たちの罪は眠りにつく。

テノール 私は、我がイエスのもとで目覚めていよう。

合唱 II そうすれば、私たちの罪は眠りにつく。

テノール イエスの魂の霊の苦しみは、私の死を償い、その悲しみは私を喜びで満たす。

合唱 II だから、我らの救いの力なる受難は、誠に苦いけれども甘いのだ。

テノール 私は、我がイエスのもとで目覚めていよう。

合唱 II そうすれば私たちの罪は眠りにつく。

58:25~1:08:14 10分

(大切な祈り)

福音史家 イエスは少し進んで、地にひれ伏しうつ 祈って言った。

イエス 我が父よ、もしかなくことなら この杯を私から遠ざけて下さい。しかし私の願うことではなく、あなたの御心のままになさって下さい。

59:34

レシタティーボ(バス II)

救い主は、御父のみ前にひれ伏している。こうして主イエスは、私と全ての人を、墮落の淵から神の恵みの座に引き上げて下さる。主イエスは覚悟を決め、苦しい杯を飲み干そうとされる。この世の罪が全て注がれる杯を飲み干される。父なる神がそれを望んだのだから。

1 : 00 : 55

アリア(バス II)

私は喜んで身を屈め、十字架と苦しみの盃を受けよう。救い主に倣って自分も飲もう。私は喜んで身を屈め、十字架と苦しみの盃を受けよう。救い主に倣って自分も飲もう。それは乳と蜜のしたたる主の御口が、苦難の源とその辛い恥を、先立って飲み干し、甘くしてくださったからだ。乳と蜜のしたたる主の御口が、苦難の源とその辛い恥を、先立って飲み干し、甘くしてくださったからだ。

1:05:24～

レシタティーボ

福音史家 そしてイエスは、弟子たちの所に来て、彼らが眠っているのを見つけて言った。

イエス 君たちは、ひとときも私と一緒に目を覚ましていられないのか？ 誘惑に陥らないように目を覚まして祈っていなさい。魂は熱心だが、肉体が弱いのだ。

福音史家 また2回目に行って、祈って言った。

イエス 我が父よ、もしこの杯を私から遠ざけることが出来ないのでしたら、私はそれを飲みます。それであなたのご意志が成就しますように。(イエスの叫びの祈り)

1:07:03

コラール

私の神の御心のように、いつも成就させてください。その御心こそ、最善至上のもの。御父は助けを惜しまない。固く信じて揺るがない者を、危機より救い出してください。慈しみの神は、適度な懲らしめを与えられる。神により頼み、神の上に堅く礎を固く据える者を、神は見捨てることはい。

## 第 32 曲～第 35 曲「捕縛」

時は近づき(ヴァイオリンの警告するようなトリル)、武装した一団がやってきて、ユダの口づけを合図にイエスを捕らえる。音楽はここでアンダンテ、ホ短調の行進曲風の部分に入り、引きずるようなシンコペーションのリズムに乗せて女声の二重唱が、捕縛の情景を悲しみをこめて描く。

第 2 合唱による「放せ、やめよ、縛るな!」の叫びが稲妻のごとく挿入されるが、不気味な予感

やがて現実の嵐となり、両合唱と管弦楽による怒りが爆発する。総休止、不協和音などを駆使した

グイヴァーチェ部分の劇的な効果はすさまじい。

弟子たちも皆逃げ去った。ここで第 1 部を閉じるのが、ホ長調による雄大なコラール幻想曲〈人よ、あなたの大きいなる罪を悲しめ〉である。コラールはソプラノに置かれ、下声部とオーケストラがこれを様々に注釈しながら進むが、シュヴァイツァーが「気高い痛みのモチーフ」と呼んだ音型に基づくオーケストラ・パートが、中でも雄弁であるコラール楽曲は、初め《ヨハネ受難曲》冒頭に置かれていた。

1:08:14~1:11:09 3分

レシタティーボ

**福音史家** 主がまた来ると、弟子たちが寝ているのを見つけた。彼らの目はすっかり眠っていた。それで彼らを残し、離れたところで3度目の祈りを捧げ、同じ言葉で語られた。そして弟子たちの所に帰ってきて、彼らに言った。

**イエス** ああ。君たちはまだ眠りたいのか？ 休みたいのか？ 見よ、時が来た。人の子は罪人らの手に渡されるのだ。立て、行こう。見よ、私を裏切るものがあそこにいる。(汗をかきながらのテノールの独唱からイエスの苦悩が読みとれる)

**福音史家** その言葉が終わらないうちに、十二弟子の1人ユダが来た。彼と共に、大祭司、民の長老たちから遣われた大勢の兵隊が剣と棒を持ってやって来た。裏切り者は予め合図を決めて言った。「私の口づけする人がその人だ。そうしたら捕まえろ。」そしてすぐにイエスに近寄って言った。

**ユダ** 先生(ラビ)ご機嫌いかがですか？

**福音史家** そしてイエスに口付けをした。しかしイエスは彼に言った。(イエスとユダが対峙している)

**イエス** 我が友よ、君の役を果たしにやって来たのか？

**福音史家** このとき、彼らが進み寄ってイエスに手を掛け、捕まえた。(この重大さを示す緊張感)

1:11:09~1:16:28 5分

アリア(ソプラノⅠ、アルトⅠ、合唱Ⅱ)

**二重唱** こうして私のイエスは今や捕らわれた。

**合唱Ⅱ** 彼を放せ！ やめよ！ 縛るな！

**二重唱** 月も光も、痛み嘆き沈んでしまいました。私のイエスが捕らえられたから。

**二重唱** こうして私のイエスは今や捕らわれた。

**合唱Ⅱ** 彼を放せ！ やめよ！ 縛るな！

**二重唱** 月も光も、痛み嘆き沈んでしまいました。私のイエスが捕らえられたから。(緊迫感)

**合唱Ⅱ** 稲妻よ、雷よ、雲の間に隠れたのか？ 業火(ごうか:悪業が身を滅ぼすことを火にたとえていう語)の淵を開け、おお陰府(死んだあと神による最後の審判を待つ場所)よ。この不実な裏切り者、人殺しの輩を、うち砕き、滅ぼし、呑み尽くし、踏みしだけ、はげしき憤怒を注げ。

**二重唱** 彼らは縛られたイエスを連行する。ここまで 59 分

1:16:28~1:20:06 4分

レシタティーボ

**福音史家** すると見よ、イエスと一緒にいた弟子たちの1人が、手を伸ばして、大祭司の僕に切りつけて片耳を切り落とした。そこでイエスは彼に言った。**(緊迫感)**

**イエス** あなたの剣を元の所に収めなさい。剣を取る者は剣によって滅びるからだ。それとも君は、天の父が、12軍団以上の天使の援軍を今すぐにでも私のもとに遣わすよう頼めないとも思うのか？ しかしそれではどうして聖書の言葉が成就されよう？ その言葉通りにならねばいけないのだ。

**福音史家** しかし、同時にイエスは群衆に向かって言った。

**イエス** 君たちは人殺しに向かうように剣や棒を持って私を捕らえにやって来たのか？ 私は毎日あなたがたのそばに座り、神殿で教えを語っていたのに、あなたがたは私を捕まえはしなかった。しかしすべてこのようになるのは、預言者たちの書いたことが成就するためである。

**福音史家** すると、弟子たちはみなイエスを見捨てて逃げ去った。

1:20:06~1:26:58 6分

コラール

人よ、あなたの罪の大きさを悲しみなさい。そのためにキリストは、御父の懷を捨て、地上に降りて来てくださったのだ(イエス様のご降誕)。清くやさしい乙女(マリア)より、主は私たちのためにお生まれになった。イエスは、神と人とをとりなす仲介者となろうとされた。

主は死者に生命を与え、全ての病を取り去った。こうして時は迫り来て、主**イエスは私たちの犠牲として屠られる。私たちの重い罪を担い、背負ってくださった、長く続く十字架の苦しみを耐えて。**

ユーチューブでアップされているマタイ受難曲

**Bach: Matthäus-Passion | Nederlandse Bachvereniging & Van Veldhoven | Nederlandse Bachvereniging**

[https://www.youtube.com/watch?v=3-o3odx2GqI&list=RD3-o3odx2GqI&start\\_radio=1&t=977s](https://www.youtube.com/watch?v=3-o3odx2GqI&list=RD3-o3odx2GqI&start_radio=1&t=977s) 2:45:19

**Bach - St Matthew Passion BWV 244 - Van Veldhoven | Netherlands Bach Society**

[https://www.youtube.com/watch?v=ZwVW1ttVhuQ&list=RDZwVW1ttVhuQ&start\\_radio=1](https://www.youtube.com/watch?v=ZwVW1ttVhuQ&list=RDZwVW1ttVhuQ&start_radio=1) 2:44:31

**Bach - Matthäus-Passion | Peter Dijkstra | Chor des Bayerischen Rundfunks**

[https://www.youtube.com/watch?v=TFff2mGT\\_B0&list=RDTFff2mGT\\_B0&start\\_radio=1](https://www.youtube.com/watch?v=TFff2mGT_B0&list=RDTFff2mGT_B0&start_radio=1) 2:45:33

**Bach - St. Matthew Passion - Iván Fischer | Concertgebouworkest**

[https://www.youtube.com/watch?v=Tq4lxMcwYwU&list=RD Tq4lxMcwYwU&start\\_radio=1](https://www.youtube.com/watch?v=Tq4lxMcwYwU&list=RD Tq4lxMcwYwU&start_radio=1) 2:48:47

車田和寿 音楽に寄せて

バッハの最高傑作！マタイ受難曲を分かりやすく解説！いつか全曲聴いてみたい人のための入門動画！受

難曲とは？マタイとは？<https://www.youtube.com/watch?v=rHR2FbJR19k> 23:14

マタイ受難曲について鈴木雅明が語る <https://www.youtube.com/watch?v=g76119NCQoY&t=45s> 4:46

**NACO** 厳選クラシックチャンネル **J.S.バッハ【生涯と名曲】意外と知らない？クラシック音楽界の巨人**

の人生と代表曲を解説（G線上のアリア/平均律クラヴィーア/マタイ受難曲など）

<https://www.youtube.com/watch?v=XA9Ovm4IX4k> 29:53